

2023年度 第44回 大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門
朗読部門 結果・講評一覧

【審査員】

仲山	豊秋	元NHK大阪放送局（主審）
秋本	みゆき	大阪府立いちりつ高等学校
伊藤	元也	四天王寺東高等学校
長光	明子	プール学院高等学校
佐治	良輔	相愛高等学校
田中	亜佐美	大阪府立東高等学校
安田	知博	放送部インストラクター
明政	真司	大阪府立豊中高等学校（計時）
加藤	康恵	大阪府立富田林高等学校（原稿チェック）

7人の審査員が100点満点で採点し、合計700点で評価しました。

その上で、規定違反(原稿通り読めていない等)について減点しました。

その得点を基準として、**上位3位を優秀賞、続く4人を奨励賞**としました。

また、入賞まで35点以内をA評価、70点以内をB評価、それ以降をC評価としています。

審査員からいただいたコメントをまとめ、「講評など」として掲載しています。

※ 審査番号順に掲載しています。

個人情報保護のため、学校名・名前の掲載は控えさせていただきます。

大阪府高等学校視聴覚教育研究会 放送コンテスト委員会

番号	評価	講評など
1	奨励	小説世界の内容をうまく表現している。アピールワードの音声化◎敢えての大阪アクセント、面白かったです。しっかりした発声。場面をきちんと作り込んでいる。大阪弁が良い。(難しかったと思います)テンポが差をつけてよかった。表現OK。セリフから始まる。地の文も聞きたい。どういう話なのか。会話文がうまいです。「さてお立合い」でひと塊では？設定が難しいねえ。この場面は、地の文ではなく、女性の独白かな？
2	A	動きを感じない朗読。内容をもっと動かしてみてもどうか。語尾が伸びています。一文の中で建てる場所が多くなっています。ややうねりがある。ブツブツ切れているので、情報をかたまりで伝えよう。区切りの音伸び注意。かん高い声をもっと欲しい。声の高低に差を。場面にあった声。晴れておりィ…語尾伸びる。小さくて吐息多め。白球聞きづらい。分かりやすい部分。一語一語がよく聞こえました。語尾伸び注意。音域を広く使って積極的に語っているのは良いと思います。「こーい…」は、応援団ではないから、そんなに区切らなくていいと思います。語尾が息っぽくなって、必要以上に切ない表現になっているようにも聞こえます。
3	B	読みの調子を感じる→棒読みになる所がある。音の高低差もつと広く。もう少し間を使いましょう。聞き手が置いていかれています。中身を聞き手に語りかけよう。読むのではなく語りましょう。高低に差を。セリフに差を。言葉に覇気がない。静かに話した、聞きづらい。私は頭が～不明瞭。シリアスに読みすぎ、場面が分からない。地の文と手紙文をよく読み分けていました。「なんのこたえら」みたいな不明瞭な音になりました。「れーぞーこ」と発音します。「おいわせないで」に聞こえます。予習せずに1分半だけ聞く人にとっては、難しくてあわただしい朗読だったと思います。アナウンスも練習してください。
4	欠席	
5	B	読んでしまうと動きが表現できなくなってしまう。もう少し間を取りましょう。単調に聞こえます。緊迫した場面をしっかり作りましょう。読むのではなく語りましょう。うねり気になります。もっと緊迫感が欲しい。場面の転換を表現できたら良い。言葉にキレがない。呼ばないとお…語尾伸びる。緊迫感がない。「あれだけ」ラ行不明瞭。読みが一様でした。「五番」がさみしそうでした。「どうして」は語尾が上がらなくてもいいと思います。「死ななかつた」が雑でした。どこに切り傷ができたかな？「首筋と」のあとのポーズが邪魔です。
6	A	内容に合わせた音声の遠近感がない→声の使い分けを!!「そこから」の滑舌。全体、演技(息)っぽい。文末聞き取りにくい。文末低すぎて苦しそう。無理に作り込みすぎない。もう少し場面をじっくり伝えてほしい。最初もう少し高い声で。テンポ差が出ていた。大阪に由来があるのですか？私が知らないだけかも。噛み。もっとシリアスにできそう。高低や緩急が自在です。1文目は、そこまで低音にしなくてもいいと思います。「いやでもおうでも」で一つです。分けなくて。「しだいしだい」で怖がらせなくていいです。
7	C	会話文と地の文が判別できない。「話すように読む」を意識してみましょう。テンポも間も意識しましょう。前半から後半に移る変化が急すぎて理解が追いつかない。1つ1つの音大切に。場面表現しきれていない。テンポが一定。大阪由来？言葉にキレがない。表現しようとはしているがもっとできる。活舌が悪い。音をつなげることを工夫しましょう。もうちょっと音域を広く使いたいです。「僕は持った」になってしまいました。放送部のアナウンサーとしての力も問われています。情報伝達のアナウンスも練習してください。全ての音に責任をもってください。
8	B	不要なポーズが気になる。内容が画になって見えてこない。「～がある」のところは「～が」の方が大事ですよ。ナ行(～の)あいまい。語尾伸びています。意味を考えて情報をかたまりにして伝えよう。場面よく分からない。不明瞭な単語がある。テンポ・間に差がほしい。男「とこ」って聞こえる。母音しっかり。眺めていた。やみ。不明瞭。あまり場面がわからない。ゆっくり読むと場面が浮かびます。「イエミネーマキ」になってしまいました。「一人の」のあとの「お」が消えました。「中へ」のあとのプレスは要りません。「自分も…であったが」までが大きなひと塊です。途中のポーズが長すぎる。
9	奨励	細かい動きが見えるしゃべりになっている→やや不自然。魅力的な声です。面白い場面を選びましたね。ラストの感情分りにくい。「麻の縄」聞こえてこない。自分の読みに酔わないで。高低に差が欲しい。テンポに差はある。最後の場面がよく分からない。細い～なんて言ったか分からない。シリアスに聞こえて良い。スピード感もOK。場面もわかりやすい。続きが気になる。ドラマのようでした。マイクから遠すぎたかな？「細い」のアクセントは中高です。場面の緊張感がよく表現できていたと思います。「はい、カット」は、そんなにぶっきらぼうに言うかな？
10	欠席	

番号	評価	講評など
11	C	状況の違いが音声化されていない→同じ調子の朗読。発声しっかりと。読んでいる状態です。「話すように」読みましょう。声を前に出して。誰かに伝えると考えて。しっかり発声を。重い場面を声で表現できたら良い。声が小さい。口が開かないためこちらまで声や単語が届かない。吐息多めの声。「させる」不明瞭。読みが一樣でした。「得体のしれない不吉な塊が」までひと塊です。主人公が歩きながら考えているイメージが欲しいです。覇気が足りません。意味のまとまりの途中に、不必要なポーズやブレスがありました。「よこばすた」になりました。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。全ての音に責任をもって。
12	C	会話文が読み調子になっている→自然な話し言葉で!! 全体に早い。スピード、もう少しゆっくりと。テンポが全部同じです。マイク近すぎ。聞き手が置いていかれています。物語をきちんと聞き手に伝えて。早い。セリフと地の文の差がほしい。速くて滑る部分が多い。突然強く発声するのではなく別の方法で工夫が必要かも。ゆっくり読むと「あなた」に伝わるようになると思いますが。「祈りの幕が下りるとき」でひと塊です。予習無しの人には分からない抽出箇所だと思います。ふだんのしゃべりよりも速く朗読していると思います。一気に話し終えたとしても、速度は制限速度を超えてはいけません。
13	奨励	細かい動きをもっと工夫して音声化してほしい。会話文、上手です。無声化。分かりやすかったです。落ち着いた読み。もう少しセリフのやり取りに工夫が欲しい。大阪弁難しいですね。テンポ・間に差が欲しい。番「ん」不明瞭。「どこで油を～」大阪弁変な気がする。2年のアクセント大阪ではない。分かりやすい場面。場面が浮かび上がりました。おかもちを担ぐ直前の言葉としては、「まいるわ」の言い方に違和感があります。「ないしあで」に聞こえます。「こころへの…多かった」まで一息で言えると思います。「なんやの」は、そんなに怒って不機嫌になってるか?
14	A	読むアナウンスで終了している。会話文の表現は◎息を吸うところの音が入ります。「こら」の前にもう少し間がほしい。うねりが気になります。西田さんは強烈なキャラなんですか? セリフからは伝わってこなかったです。声と場面が合っている。大阪弁難しいですね。強烈な人柄がもっとほしい。声色変えるのはよいが演劇にならないように注意。「世話し」アクセント。単語の一音目の読みを工夫しましょう。「祈祷会」の「き」は無声化。他にも無声化の見逃しがありました。「さら遊びたい」になりました。そんなにかわいらしい声で説教をしたかな? 「体が」が低いのはおかしいです。「少しずつだが…いる」までひと塊です。
15	A	内容を考えると笑声で伝えていいのか? 演技調になっています。きれいな声できれいな読みをするのではなく、聞き手に語りかけることを目指しましょう。アクセント。場面がよくわからない。表現できてる所もある。うねりや声の作り具合が気になる。呼吸が聞こえてしまう。間工夫できている。くせがある。登場人物の読み分けを工夫しましょう。「僕の…としたら」までひと塊です。「すらにやった」になりました。雰囲気から先に作っているように感じます。まずは普段の声で普通に伝達できるようになってほしいです。アナウンスも練習して。最低音まで下がるのは文末だけにしましょう。
16	優秀	内容に見合った朗読といえる。やや読み調子になるところも。場面が思い浮かびました。マイク少し近いかも。緊迫した場面をもう少し前半で作ってほしい。丁寧な読み。表現OK。活舌少し甘いところがある。声が良い。スーツと頭に入ってくる。セリフが徐々に大きくなる。場面も良い。人に伝わる朗読。場面と状況が見えるようでした。「たちげき」に聞こえました。「万が一」のあたりから、やかましかったです。マイクに近づいてしまった。「足りぬ」は平板。素人のアクセントは頭高のほうが時代に合う。「振り返ると」のあとのポーズは、もっと長くてもいいと思います。
17	優秀	各動きに合わせた声づかいができています。場面思い浮かびました。愛も伝わりました。落ち着いた丁寧な読み。間の取り方、幸せそうな雰囲気がよく出ている。表現OK。場面が浮かんだ。「急ピッチで」らへんが少し言いにくそう。声良い。場面が頭に浮かぶ。幸せさが声に出て良い。場面が良い。間合いが良かったです。「びょうひつ」に聞こえます。「数」は「か」だけを高く。「要約」から全部遅くすると、ちょっとしこすぎると思いますが。
18	A	もっとしっかり声を出せば工夫しているところがアピールできるはず。場面思い浮かびました。もう少し声量が欲しいが高低差はしっかりしている。人間関係がつかみづらい。もう少しわかりやすい場面があったのでは? 高低に差、テンポに差がほしい。もりみやさん? 不明瞭。「あーついうちに」うねりがある。言葉にキレが少ない。高低をつけると読み分けができると思います。ややマイクから遠かったかな? 「ははおやは…」は、リアルなセリフにしなくてもいいと思います。「うんそうだねありがとういただきます」は、そんなに一つずつ区切って躊躇しながら言うのかな? 「自分でコーヒー」のあたり、ずり上がってます。自然なイントネーションを身に着けて。

番号	評価	講評など
19	B	完全な読みの朗読になっているため、動きや状況がわからない。少しマイク近いかも。「墓まで」が強すぎ。マイク近すぎ。意味を考えて話し言葉の呼吸で地の文を表現しよう。間にもっと工夫を。間が一定。テンポも変えましょう。場面と声が合っていた。マイクに近すぎ。口内音が聞こえる。声にうねりがある。すわって(ふわって)に聞こえる。言葉をつなげて読む工夫をしましょう。マイクに近すぎる。「しりっぺた」は平板でいいと思います。「遠回りして」のあとの言葉が聞き取れません。「犬を買ったら」になってしまいました。「なんなら」のアクセントは平板ではありません。抽出箇所が難しかったです。
20	C	声の出が弱いので内容が画になって見えてこない。会話の内容がわかりにくい。マイク近すぎ。セリフのやりとり、「フン」は本当にそれでよい？ 大阪弁難しそうですね。テンポ・間に工夫を。言葉にキレがない。上から下に読むというのができていない。落語や演劇のようになってしまっていた。噛み。台詞の間合いが現代風でした。昭和のゆっくりさを工夫しましょう。小声っていうより、高い声で興奮してるように聞こえます。放送部のアナウンサーとしてのトレーニングもしてください。
21	A	長文になると読み調子が目立ってしまう。聞き取りやすい。ダ行。スピードに変化が欲しい。スピード・間がやや単調(前半)。長い文の処理にもっと工夫を。もっと都市伝説の不思議な感じを。後半は表現できていた。番「ん」が不明瞭。ゆっくりで分かりやすい。もう少し高低を使い分けるといいかも。緩急が欲しい。読みが一様でした。タイトルコールだけ、高い音が使えませんでした。「喫茶店」の「き」は無声化。「雷」から音量が上がってしまった。「キーワード」という言葉が高く強くなってしまった。「ひー現実的」ではありません。
22	B	すべての場面を同じ音声でしゃべってしまっただけでは内容が伝わってこない。声の高低差せまい。単調に聞こえます。マイク近すぎ。無声化等の技術を磨きましょう。内容を聞き手に伝えることを意識して。アクセント。高低やテンポに差を。音読になっている。緩急がないため、物語が頭に入らない。読みが一様でした。覇気がほしいです。「夏の…のだ」まで一息。「気づくのは」のあとのブレスも要らない。「かれらー」になってしまった。全ての音に責任をもってください。アナウンスも練習してください。
23	B	各動きの違いを音声化してほしい。アクセント“つながってる”文末もう少し丁寧に。文頭高く入れるように練習しましょう。文末の処理が単調。内容をかたまりで捉えて聞き手に伝えましょう。星の明るさをもっと表現。声を高めで。間をとれていた。テンポでも差を。「23番」アクセント。「あの悪夢～」から急に元気になる。「コイチが言った」の声が地の文っぽくなかった。「つながっている」アクセント。地の文と会話の読み分けができていました。アクセントを工夫しましょう。覇気が足りません。母音の発音を明瞭にしてください。文末まで読み終えたときに、息が余ってしまっていると思います。「俺たち」は「れ」だけ高く。「つながってる」は平板。「結ばれてる」も平板。
24	A	もっと自然に反応してみてもはどうだろうか？一文の中でブツブツ切れています。演技っぽくなってます。話し言葉の息で語ろう。間も単調。怖いほど静かさを表現。もっと「ムキに」なって。最後はよかった。語尾が消えがち。「～でえ」母音伸びる。「場所」不明瞭。もっと悲しみ欲しい。工夫は見えるので、滑舌が気になる。間合いを工夫しましょう。「にしかなこ」の「こ」が消えました。「ほど」のアクセントは要りません。「だろう」のアクセントも要りません。「すっぽり」の「す」は無声化。「しっとり」の「し」も無声化。
25	C	「25番」アクセント。声が出ていない。各シーンの違いがわからない。「話すように読む」を意識しましょう。1つ1つの音を丁寧に出すことを心掛けよう。場面いいと思います。最後の1文とそれまでのつながりは？発声を。テンポに差、声の高さにも差を。言い間違えはそんなに気にせず。「25番」アクセント。それまでは大阪弁。不明瞭な部分が多い。読みが一様でした。母音の発音が雑な箇所があります。下からずり上がる読み方が癖にならないように注意。全ての音に責任をもってください。語尾伸び注意。最後の終わり方に注意。
26	C	アクセント。違うシーンがすべて同じ音声で表現してしまっている。「話すように読む」を意識しましょう。話し言葉の息で聞き手に伝えましょう。地の文とセリフの区別がつかない。テンポ・高低が一定。アクセント。伊豆のアクセント合ってますか？サ行不明瞭。地の文とセリフの違いが分かりづらい。会話文？読みが一様でした。伊豆の踊子のアクセントが違います。「きもちんなって」になりました。「単純で開けばなしな響き」では？発音を明瞭にしてください。

番号	評価	講評など
27	優秀	各場面の違いが音声化できている。うまく音の使い分けができている。タイトルコールいいです。聞き取りやすい。場面も浮かびました。「何も言えなかった」は下げなくてもいいのでは？丁寧な読み。場面を作り込もうとしている。最後の文の切り方おかし。表現OK。テンポ・間で幅をつけられる。声の差がOK。けたたましいが怖すぎるかな？場面がわかりやすい。「何も言えなかった。」が急に低い。ドラマチックでした。「けたたましく」をそこまでやかましく言う必要は無いと思います。セリフと、動きの関係を整理して。そんなに全部のせりふが大声でゆっくりにはならないと思います。
28	欠席	
29	B	全編同じ音声遣いになっている。動きがわからない。「毛も血が」もっと丁寧に。全体早い。低く出しすぎて苦しそう。もう少し丁寧に場面を作ろう。抽出長いか。活舌が甘い所が。声の高低・テンポで差をつけて。うねりが多い。声がたまに抜けるため、うねりに聞こえる。くせ。「ながめてから」アクセント。もっと怖く読めると思う。読点で切れた箇所の読みが一定でした。覇気が足りません。語尾伸び中位。母音の発音が不明瞭になっています。何に不信を感じた？必要のないブレスが入っていると思います。
30	A	各場面が何を表しているのかを考えると声遣いが変わってくるはず。面白い場面です。う行注意。「～は」が「～あ」になっています。「ケーサツ」冒頭からうねり。場面の焦った雰囲気をもっと作って。場面に合わせて声を低くしている。苦しうに聞こえるところも。テンポで表現しては？「うらづけ」急に弱い。声の圧が弱い部分があり、うねりに感じてしまう。「～ない。」下がっていない。吐息が多いボイス。言葉のつながりを工夫しましょう。「見逃して」は平板。語り口は良いので、高い音も使えるようにして表現に余裕を持たせましょう。
31	B	面白さや楽しさが音声化できていない→全編笑声対応しては。文がブツブツ切れています。面白い場面です。うねりが気になる。話し言葉の呼吸で聞き手に伝えよう。区切りすぎ。意味を考えてかたまりで伝えましょう。テンポに差を。おいしそう。でももっとおいしそうに！→高い音をもっと。表皮「っひょうひ」に聞こえる。文の中のうねりが多い。「カツブシ」アクセント。呼吸が聞こえる。「いや、まじで。」が文からはなれて聞こえる。言葉のつながりを工夫しましょう。ややマイクに近すぎると思います。最低音まで下がるのは文末だけにしましょう。かつぶしのアクセントは平板です。自然なイントネーションを身に付けてください。アナウンスも練習してください。
32	A	もっと強力に各シーンの違いを音声化してはどうか？音のトーンがすべて同じ。一音一音しっかりと。音がひっついて聞こえます。間をあげた後の場面、もう少し長くとりたい。丁寧に伝えようとしている。1つ1つの音やアクセントにもっと気を配ろう。冒頭言いにくそう。眠っている姿表現できている。それ以外もうまく表現できたらよい。言葉にキレがない。声の圧が一定でない。「さわいだり」アクセント。ゆっくりは良いが、うねりが気になる。「歌」不明瞭。単語の音を落とさずに読む工夫をしましょう。「その一えに」になりました。「熟睡」の「く」は無声化。「騒いだり」は中高。「こころのどこかで固くなった」ですか？「どこかでほどける」では？最後の2文は無いほうが終わりやすいのでは？
33	C	会話文と地の文をもっと明確にすること！滑舌に課題あり「話すように読む」を意識してみましょう。発声練習もしっかり。音の輪郭を意識して声を前に出そう。発声を。活舌。テンポ・間が一定。う行が分かりづらい。「もらした」アクセント。何と言ったか分からない部分がある。単語の最後の音が伸びているようです。放送部のアナウンサーとしての責任感も必要です。地の文の発音が雑すぎるでしょう？語尾伸び注意。
34	欠席	
35	A	もっとしっかりと声を出すことで自分が工夫したとことがアピールできるはず。どの文も文の最初がはやい。ヒラニシサン？アクセント気をつけよう。丁寧に表現しようとしている。怖さを表現。おいしさを表現。高低で差をつけよう。「てだれ？」不明瞭。工夫は分かるが、上から下によむだったり、緩急でもっと工夫できる。もう少しゆっくり読まれると、情報でなく心情として聞き取れると思います。平西のアクセントは中高。子音のT Dの発音を見直して。「悪く」は頭高。「コンビニの…面白い」まで一息で言える。無駄なブレスが他にもあると思います。
36	B	やや読み調子。アクセントに注意 会話文と地の文をより明確に。「ことば」の「ば」。「カミヤさん」「ぼくたち」何者なのか分かりませんでした。「火花」聞こえない。長い文の処理工夫しよう。できないなら別の場面を選ぼう。うねりがある。テンポで差をつけよう。低い声を使おうとしている。口先の開きがありよくないためか、声の響きが奥にきこえる。サ行を特に意識しよう。所々低すぎて辛そう。楽しそうな場面を感じました。「するこたが」になりました。「リオ目覚めよ」に聞こえます。放送部のアナウンサーとしての力も問われています。「そこにさわしい」ですか？「だけ」だけ高く言うのはおかしです。「傘をせっつづける」になった。最後の文は無いほうが良かったかな？

番号	評価	講評など
37	奨励	<p>アクセント。全体的に同じ音声遣いになっていることで場面が見えない。後半分かりやすく場面が思い浮かびました。丁寧に表現しようとしている。列挙する表現が多いので工夫を。アクセント。テンポ・間に差がついている。高低での差ももっと欲しい。もう少しマイクに近くて良いかも。息が多め。間は良い。場面が分かりづらい。なぜいなくなった。間合いが良かったです。「箱から」は平板。「暗い中目を凝らしてみると」までひと塊。「固定していたからー」のように伸びないように注意。最低音まで下がるのは文末だけにしましょう。</p>
38	C	<p>不要なポーズが目立つ。もっとしっかり声出しすること!! 「話すように読む」を意識しましょう。ぶつぶつ切れて聞こえます。自信をもって声を前に出そう。マイク近すぎです。意味を考えてかたまりで表現しよう。発声を。テンポ・声の高低に差を。マイクに息が載っている。プツプツ切れ気味。「～に」上がっている。言葉のつながりを工夫しましょう。「単衣(ひとえ)」と読みます。マイクに息がかかると、雑音が出ます。適切な距離と角度を研究してください。放送部のアナウンサーとしての経験も積んでください。ニュースやお知らせも練習してください。</p>
39	欠席	
40	B	<p>読み調子になってしまった。声が細いので内容が伝わらない。ぶつぶつ切れて聞こえます。「話すように読む」を意識しましょう。「見えかくれ」など立てなくてもよい語が立ってしまいます。マイクやや遠いか。読むのではなく聞き手に語りかけて。内容きちんと理解できているでしょうか。マイク少し遠かった。きれいな発音。踊り子のセリフ良い。もう少し声が出たら良い。発声を。テンポ・間が一定。ちゃんと発音しようとしているが、口の動きが大きすぎてカクカク聞こえる。ダ行気になる。情景が浮かんできました。タイトルコール、覇気が足りません。「おふくろ」の「ふ」は無声化。語尾伸び注意。「私たちは…眺めた」まで一息で言えるはず。「大島」は頭高。「ように」のアクセントは要りません。「海が」が低くて「見え隠れ」が高いのはおかしいです。</p>
41	C	<p>声の出が弱い。もっと強い声・弱い声、太い声・細い声の使い分けを!! ぶつぶつ切れて聞こえます。場面の抽出、再考を。マイクやや遠い。読むのではなく聞き手に語りかけましょう。母の話し方それでいいですか? 発声を。声の高低に差を。母の声くらいの高さを。テンポにも。声が頼りない。ゆれてしまっている。突然のセリフでおどろいた。あららげた? 間合いを工夫しましょう。覇気が足りません。言葉が難しすぎると思います。あなたの普段の言葉とかけ離れていない作品を探しましょう。「私」は何歳かな?</p>
42	A	<p>内容の違いを音声化しようとする工夫が見られる。いい声です。「話すように読む」を意識しましょう。「森美」アクセント。全体としてやや単調。テンポに差がつけられている。地の文で太陽の塔をもっと印象付けたい。良い声。長い文のうねりが気になる。「見あげて」えにきこえる。場面がよく分からない。風の読みに工夫がありました。「私は…タバコを」など、母音の発音が内側にこもってしまう場面がありました。「すごいです」からやかましくなった。「みえげて」になりました。「ひんやり」を怖そうに言う必要はありません。</p>